

聖書

全学年 課題コースA・B



課題コースA <新島襄生誕 178 年記念 懸賞論文に取り組もう>

課題の内容・取り組み方

別紙の要綱を見て、懸賞論文に応募する。

○論文は本校でまとめて同志社大学社史資料センターに送ります。

○学校としての締め切りを 10 月 20 日（火）頃とします。

○入賞作品は「2020 年度新島生誕記念懸賞論文入選作品集」に掲載されます。

課題コースB <新島襄・同志社について調べよう>

課題の内容・取り組み方

各自でテーマを設定し、関連書籍や Web サイト、電話や Zoom での取材やインタビュー等で調べたことをレポートする。

○レポート形式や枚数は自由です。

○取材やインタビューをする場合は所属と名前を告げ、目的をはっきり伝えてから行ってください。

課題コースC <自由課題>

課題の内容・取り組み方

宗教、キリスト教、聖書などに関するテーマを設定し、自由に取り組む。

○なぜこのテーマにしたのか、その動機を述べる。

○テーマについて「なぜ」「どうして」「どのように」などの疑問を投げかけ、それについて調べ（文献、フィールドワーク、HP など）、考え、結論を導いていく。

○最後に自分が学んだこと、得たもの、これからの人生に生かしていきたいことなどを述べる。

応募資格

- ① 同志社の諸学校（中学校、高等学校、大学、女子大学、大学院）に在籍する生徒・学生
- ② キリスト教学校教育同盟に加盟する学園に在籍する生徒・学生
- ③ 新島襄または同志社に関心を持つ中学校、高等学校、大学、大学院の生徒・学生

論文のテーマ

「新島襄または
同志社の歴史に関するもの」

字 数

		日本語の場合	英語の場合
中学校の部	手書き	本文 2,500字程度 A4判原稿用紙 (縦又は横書)	
	パソコン	本文 2,500字程度	本文 1,500語程度
高等学校の部	パソコン	本文 4,000字程度	本文 3,000語程度
大学・大学院の部	パソコン	本文 12,000字程度	本文 7,500語程度
パソコン原稿の書式		A4判横書 1ページ 40字×30行	A4判横書 1ページ 30行

締 切

2020年11月4日(水)【必着】

送り先

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学同志社社史資料センター

表 彰

応募作品は審査委員会において審査のうえ、最優秀賞、優秀賞、佳作を選び、第178回新島襄生誕記念会（2021年2月12日(金)同志社礼拝堂）において賞状・賞品を授与する。なお、入賞作品は『2020年度新島襄生誕記念懸賞論文 入選作品集2021』に収録し、刊行する。また、入選者については『入選作品集』に学校名、氏名を記載する。



2020
年度

新島襄生誕178年記念

生徒・学生

懸賞論文募集

注意

- ① 応募にあたっては募集チラシ裏面の「新島襄生誕記念懸賞論文 作成要領」にしたがうこと。
(<https://archives.doshisha.ac.jp/essay/outline.html>)
- ② 断りなしに他者の文章を使用してはいけない。使用した場合、注をつけるか、原稿末尾に、引用文献および参照した文献のリストをつけること。詳しくは同志社社史資料センターホームページ「懸賞論文」(<https://archives.doshisha.ac.jp/essay/outline.html>)あるいは『2019年度新島襄生誕記念懸賞論文 入選作品集2020』(学校法人同志社各校園書館に所蔵)掲載の「懸賞論文の書き方について」を参照すること。
- ③ 『新島襄全集』『現代語で読む新島襄』『新島襄の手紙』『新島襄 教育宗教論集』『新島襄自伝』など、新島自身の文章を資料として利用することが望ましい。
- ④ 応募原稿は原則として返却しない。

主 催 ▶ 学校法人 同 志 社

問合せ先 ▶ 同志社社史資料センター事務局

(TEL : 075-251-3042 FAX : 075-251-3055 E-mail : ji-shasi@mail.doshisha.ac.jp)

新島襄生誕記念懸賞論文 ■ 作成要領 ■

新島襄生誕記念懸賞論文審査委員会

1 文字数・ワード数について

本文の文字数・ワード数は指定数の上下10%前後を目安とする。

2 作成方法

(1) 共通事項

- ① A4判の用紙を使用する（原稿用紙の場合、特に気をつけること、おおよそ29.7×21cm）。
- ② ページ番号をつけること（タイトル、氏名等を記載したページを第1ページとする）。
- ③ 表紙はつけない。
- ④ 1ページ目の冒頭に「タイトル」（必要な場合は2行目を使ったり「サブタイトル」をつけてもよい）、改行して「所属学校・学年」、さらに改行して「氏名」を書き、氏名には「ふりがな」をつける。
- ⑤ 本文の文末に本文の字数（日本語）かワード数（英語）を記載する。
パソコン等に表示された字数・ワード数でよい。原稿用紙の場合は、行単位で計算する。
- ⑥ 高校生以上はパソコンで作成すること（後日提出を求める場合があるので、作成した応募原稿はデジタルデータで保存すること）。

「(1) 共通事項」とあわせて以下の事項にしたがうこと。

(2) 原稿用紙使用の場合（中学生）

- ① 400字詰A4判原稿用紙（20字×20行）を使用すること。
- ② 縦書き横書きは自由。
- ③ 鉛筆のBまたはHBを使用し、大きくしっかりと濃い目の字を書くこと。

(3) パソコンで作成の場合

- ① 原則として横書き、1頁40字×30行とすること。
- ② 特に必要ある場合は縦書き（用紙横）1頁30字×40行としてもよい。

3 論文の書き方について

(1) 「」の前には、句点（。）はつけない。

例：文書の途中の場合 …と言った」と書いている。
文書の最後の場合 …と言った」。

(2) 年号は西暦で表記する。なお、必要な場合は元号を併記する。

例：1875（明治8）年

4 注のつけ方について

論文の場合、注のつけ方はたいへん大切で、その論文の価値にも影響する。応募にあたっては、『新島襄生誕記念懸賞論文 入選作品集』（学校法人同志社諸学校等の図書館に所蔵）中の「懸賞論文の書き方について」を必ず読んで、例にならうこと。

同志社社史資料センターホームページ／「懸賞論文」のホームページにも掲載しているので、参照すること。<https://archives.doshisha.ac.jp/essay/outline.html>

同志社大学 今出川キャンパス について



1. 同志社大学今出川キャンパス 建築物紹介 サイト doshisha.ac.jp

① 同志社礼拝堂



D.C.グリーンによる設計で、1886年に竣工したプロテスタントのレンガ造りのホールとしては日本に現存する最古の建物です。正面中央に円形のバウ窓、左右にアーチ窓を設け、切前に屋根と尖アーチの入口を持ち、ゴシック建築の特徴が出ています。1963年7月に重要文化財に指定されています。

② ハリス理化学館



高等教育レベルの理科教育機関設立のために寄附されたJ.N.ハリスからの寄附により、ハリス理化学館の校舎として建てられました。A.N.ハンセンによる設計で、1890年7日に竣工したレンガ造の建物です。重要文化財に指定されています。今では同志社ギャラリーとなっています。

右の写真にあるように螺旋階段があるが元々天文台につながっていたが地震によって撤去された

③ クラーク記念館

B.W.クラーク夫妻からの寄附によって建てられ、1894年1月30日に開館しました。当時は「クラーク神学館」として神学教育と研究に利用されていた。重要文化財に指定されている。天井にはシェンデリアが吊り下りてあり窓からは山などが見えてとても落ち着く場所だった。エントランス上部には「Byron Stone Clarke Hall」と刻まれている。



④ 彰栄館

アメリカンボードの寄付にD.C.ケリーンが設計した建物で、1884年に竣工しました。レンガ造の洋風な外観に対して、内部は純和風になっています。塔屋は鐘塔を兼ねており、毎朝の礼拝を告げる鐘の音は明治以来、同志社中学校が岩倉キャンパスに移転するまで司鐘生と呼ばれとされる中学校の生徒が担当していました。今では重要文化財に指定されています。



⑤ 良心館

文系学部の教育を京都市内に統合移転させるために、岩倉キャンパスに移転した同志社中学校の跡地に建築し、2012年10月に竣工した延床面積が40,000㎡を超える建物です。教室や食堂があります。

館名の「良心」という言葉は、新島襄が「同志社大学設立の旨意」に、「国の良心を謂ふべきを養せん」「所謂良心を手腕に運用するの人物を出さん」とを勉めたりきと、同志社の行く教育として明確に示して、良心碑などもあるため同志社建学の精神を表す最も重みのある「良心」が用いられることとなった。



⑥ 神学館

神学部・神学研究科の研究室、共同研究室があり同志社神学教育の拠点で、1963年7月に竣工しました。3階には礼拝堂があり、入口の壁面には、ヘブライ語と旧約聖書の創世記第1章1節から9節が大きく刻まれています。この礼拝堂は、正面の壁を細く織に彩るステンドグラスや石の聖餐台等、様々な特徴を持ち、1977年には、パイプオルガンを設置されました。



⑦ 有終館

当初は「書籍館」と呼ばれた同志社最初の図書館でD.C.ケリーンの設計により、1887年11月に竣工。レンガ造の建物です。図書館の役目を終えた際に、時の海老名弾正第8代同志社総長が「有終館」と名付けました。

1979年に重要文化財に指定されています。



⑧ 啓明館

同志社の2代目図書館としてW.M.ヴォーリーズが設計し、卒業生などの寄付により1915年9月に書庫棟(西館)が、翌1920年3月に卒業生の山本唯三郎からの寄付により本館が竣工した。1920年4月の大学令による同志社大学開校のシンボルとなる建物でした。1957年には新書庫棟(東館)が増築されました。2007年7月に登録有形文化財に指定され、現在は、人文科学研究所、同志社社史資料センター、施設部が利用しています。



⑩ アーモスト館

1921年に創立100周年を迎えたアーモスト大学が、同志社に卒業生を送り出すプログラム「アーモスト同志社プログラム」を開設しました。その第1回学生代表であったS.B.ニコルズの母親ヤアーモスト大学の卒業生からの寄付によりW.M.ヴォーリーズが設計した建物で竣工しました。1962年にゲストハウスが、1979年に無賓主庵が寄贈されて併設施設も充実しています。現在は主に外国人学生の宿泊施設となっている。



⑪ 弘風館

教室棟、日本語・日本文化教育センターの拠点で、入学センター、広報課や校友課もある複合施設です。1959年3月に現在の姿になりました。館名は、現在の至誠館の位置にあった同名建物の名称を受け継いでいます。



⑬ 至誠館

商学部・商学研究科の研究室、教室等がある複合施設で1967年4月に竣工しました。館名は、牧野虎次第11代同志社総長が命名し中国の古典「中庸」の「至誠は神の如し」「唯だ天下の至誠は能く化すことを為す」「至誠は息むことなし」由来します。

⑭ 良心碑

今出川キャンパスの正門を入ったところ、同志社教育のシンボル良心碑が建っています。

刻まれている文字は、新島襄が晩年、生徒に与えた手紙の一節とをなっている。



2 現地調査

訪れた日 2019年 8月4日
場所 同志社大学今出川キャンパス
写真 図書館



良心館 (内部)



クラーク館 内部



今出川キャンパス 西門付近



感想

僕は今回、同志社大学今出川キャンパスについて調べました。このキャンパスには歴史ある建物や石碑などがありました。
僕は今出川キャンパスで貴重な建物や歴史のある物にふれあうことができました。
僕はこのことから、このような物を大切にしていきつつ、そのようなことにふれあえたということとをこれから先の糧にしていきたいと思いました。

航原 廉太